

## 住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

# 京都建築事務所

〒 604-8083  
京都市中京区三条柳馬場東入中之町10  
代表取締役社長 川下 晃正  
TEL (075) 211-7277  
FAX (075) 211-7270  
<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

## 第30回総合社会福祉研究所総会は オンライン（ZOOM）にて開催いたします

\*\*\*\*\*

日頃より総合社会福祉研究所の諸活動にご協力たまわり、感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大のため、昨年は文書のみにて開催した総会につきまして、今年度はオンライン（ZOOM）にて開催したいと思います。

会員のみなさまには、7月中旬に、議案書および返信用のおはがきを送付させていただきます。ZOOMのURLをお送りするメールアドレスが必要なため、ご出席いただける方ははがきの返信とともに、かならず総合社会福祉研究所HPよりお申込みをお願いします。

また、当日ご出席がむずかしい方は、かならず委任状（はがき）をご返送ください。何卒、よろしくお願い申し上げます。

**第30回総会：2021年8月28日（土）10時～11時45分**

総会后、13時より開催される研究交流集会にも、ぜひご参加ください！



## 長崎にて、原爆の目をおもっ

1945年8月9日、午前11時2分、長崎に投下された原爆により、当時の長崎市の人口24万人（推定）のうち約7万4000人が死亡し、建物は約36%が全焼または全半壊した。上空500メートルで爆発、火球となって3秒間のうちに強烈な熱線と衝撃波・爆風が地上を襲った。

平和祈念像(写真)の前では、毎年平和祈念式典がおこなわれる。当時、爆心地から約100メートルの地点に長崎刑務所浦上刑務支所があり、爆心地にもっとも近い公共の建物だった。刑務所内にいた職員18名、庁舎居住者35名、受刑者及び刑事被告人81名（うち中国人32名、朝鮮人13名）計134名全員が即死した。平和公園の周囲には、刑務所の周囲をめぐらしていた壁の一部（写真）が遺構として残されている。



.....  
のどが乾いてたまりませんでした  
水には あぶら のようなものが  
一面に浮いていました  
どうしても水が欲しく？  
とうとうあぶらの浮いたまゝ 飲みました  
——あの日のおる少女の手記から

平和公園のなかには、平和祈念像のほか、平和の泉、折鶴の塔、長崎の鐘、世界各国から寄贈された祈念碑や祈念像などがある。公園入口からの階段には長いエスカレーターが設置されているほか、各所にベンチなどもあって、多くの市民が日頃から散歩などで訪れる。長崎市の公式ホームページには「願いのゾーン」としてくわしい案内が掲示されている。



うらかみでんしやどう

浦上天主堂は、爆心地から北東へ約500メートルの地点にあった。大正15年（1925年）に完成するまで30年の歳月をかけてつくられ、東洋一の赤レンガづくり教会だった。現在の天主堂は、1959年に元の地に再建されたもの。

被爆で近くの川まで崩れ落ちた鐘楼の一部は、遺構としてそのまま保存されている。崩壊した堂壁と石像の一部は、新しい天主堂建設のため1958年に原爆落下中心地碑のすぐそばに移設され、内部や表面の補強をして被爆当時のまま保存されている。被爆中心地は小さな公園として整備されており、緑に囲まれた憩いの空間として親しまれている。



明治元年（1868年）創立の山王神社は、爆心地から南東約900メートルの場所の高台にあった。参道には一の鳥居から四の鳥居までであったが、爆風に対して平行に立っていた一の鳥居と二の鳥居だけが倒れず、あとは倒壊した。二の鳥居は爆心側の半分を吹き飛ばされたが、片方だけが倒れずに残り、いまでも元の場所に保存されている（写真）。

坂を登る階段の周りには民家が立ち並び、市民が行き交う暮らしのなかに被爆の記憶が残されている。山王神社の境内には「被爆クスノキ」が青葉を茂らせて残っており、たくさんの千羽鶴が飾られていた。

神社のすぐ近くには保育園があり、お迎えの5組の家族がなかよく家路への階段を下っていく姿に出会った。子どもたちは手をつなぎ合ったり、駆け足ではしゃぎ合ったり。その周りでお母さんやお父さんたちは長話にふけていた。この家族たちも、二の鳥居や原爆クスノキや原爆の日のことを語り合うことがあるのだろうか……

（写真・文 塩見一弥）

●特集● 平和をめざし、守るためにできること

アメリカと一緒に軍事対応を強化するのはダメ 塩見 一弥 10  
長崎民医連の職員だからこそ、学び、伝えたい

柴田親男・松永崇嗣 13

日本政府としてミャンマー国民を支援してほしい 20

私たちが選んだのは、軍政ではなく国民統一政府！ 24

●トピックス●

【PHOTO】ズームイン！

社会福祉法人桃郷 放課後等デイサービス青空 26

新型コロナウイルス感染症クラスターを経験してⅠ 山中ひろみ 28

新型コロナウイルス感染症クラスターを経験してⅡ 中島 素美 32

天海訴訟 千葉地裁判決のポイントと問題点にかかる考察  
山崎 光弘 36

コロナ禍であらためて考える公衆衛生・保健行政のあり方  
武内 一 42

第26回社会福祉研究交流集会のご案内 46

第5回陸前高田学校のご案内 48

●連載●

WORK WORK——わくワク——

標高300m天空の茶畑のお茶 サテライトいぶき 52

かさねあい、はぐくみあう保育実践  
ひむろこだま博物館をめざして！ 岩尾 亮太 54

JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合（5） 58

非正規差別を許さない保育職場に

私の履歴書 社会福祉経営全国会議（5）  
「福祉」とは「しあわせ」「ゆたかさ」と同意語 辻村 惺 60

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（25） 水野阿修羅 62

相談室の窓から  
ダウン症者の加齢にともなう変化と支援課題 青木 道忠 64

育つ風景 清水 玲子 66  
子どもの側に立つことをあらためて教えてくれる子どもたち

ひととしてあたりまえに生きたい  
「なかまの里をつくる会」会長として（7） 清田 廣 68

映画案内 『キネマの神様』 吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて 座骨神経痛はとつぜんやってきた 生田 武志 72

似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート  
スポーツは爽やかに、じゃ！ ラッキー植松 74

ホームレスから日本をみれば ありむら潜 76

花咲け！ 男やもめ 川口モトコ 77

●表紙の絵●  
神門やす子



# 危機をチャンスに ——あたらしいチャレンジ

全国保育団体連絡会副会長／保育研究所常務理事 逆井 直紀

みなさまにこの雑誌が届くころは、私ども全国保育団体連絡会（以下、全保連）が、実行委員会を結成してとりくむ第五三回保育合研（全国保育団体合同研究集会）（七月三十一日（土）八月一日（日））がちょうど開催されているタイミングです。

コロナ禍で、昨年福島でおこなはずだった五二回集会は中止となり、急きよ一日だけのウェブ集会を実施しました。今年は、前年より前進したいと開催地の広島はじめ全国の人々と協議し、対面集会和ウェブ配信を同時におこなうハイブリット方式の集会を、二日間の日程で開催することにしました。ウェブ配信では、広島での対面集会の模様も含め、配信専用の独自講座などを自由に視聴できる期間を設けます。また、開催地ばかりでなく全国の組織で分担してオンラインで分科会をおこなうなど、新しいかたちの集会です。

第一回の合研集会は、一九六九年八月に開かれました。この時の集会は全国の保育に関わる諸団体が、まだ実践が始まったばかりで学ぶ機会がなかった乳児保育や、各地で展開された保育所づくり運動などを学び合い・交流する場として、企画されたのです。一度限り、試行的にやってみようと参加団体が実行委員会を組み開催した集会が、参加者の総意で、毎年開催されるようになりました。また、年一回の交流にとどめず、月刊『ちいさいなかま』を創刊して、誌面を通じた日常的な交流や学びをおこなうようになりました。ちなみに、『ちいさいなかま』は、今年で創刊五〇周年になります。

こうして集会や雑誌を通じて、交流や学びを積み上げるなかで、保育をよくするため



## さかさい なおき

1960年生まれ。1990年に全国保育団体連絡会事務局に入局。保育研究所で月刊『保育情報』、年刊『保育白書』の編集責任者。本誌全国編集委員。財政活動として、9条の9を強調した絵本作家の<sup>ふりや</sup>降矢ななさんのイラストで、マグカップと水筒をつくりました。1,500円と1,700円(税込)です。全国保育団体連絡会(TEL03-6265-3171)まで。

には、学び合うと同時に、公的保育制度を守り育てることが大切だということで、国・自治体に対する要求運動をおこなうための組織として、全保連が一九七九年に発足したのです。現在では、合研集会の開催、『ちいさいなかま』などの普及活動や各種研修事業を軸とする研究運動と、保育制度の改善を求める要求運動、という二本柱を基本に活動しています。

要求運動では、労組等の団体と共同してとりくむ国会請願署名に毎年とりくんできています。全国で保育者や保護者らが署名を集め、その集めた署名を国会で審議されるようにするために、その趣旨に賛同する紹介議員になっていただくよう与野党の国会議員に働きかけています。二〇一九年度の署名では約一五六万筆の署名を集め、一〇八名というこれまでにない紹介議員を得ることができ、参議院で採択を勝ち取りました。

二〇二〇年度はコロナ禍によって、署名数は減ってしまいました。議員への働きかけも、東京・国会に集まったの行動ができなくなりました。ではどうするかと話し合い、議員の地元でいねいに働きかけることを方針としました。五月時点で二〇一九年に次ぐ一〇〇名の紹介議員を得るに至っています。

コロナ禍によって途切れがちな運動の輪づくりを、みんなの知恵と行動力でカバーして新たな局面を切り拓こうとしています。困難は新たな飛躍のチャンスともいえます。雑誌の部数減など課題は山積みですが、まずは五三回合研集会を成功させ、そこでの感動を力にさらに活動を展開したいと思っています。

# 平和をめざし、守るためにできること

本誌では毎年八月号で、戦争や平和のことを考えています。とくに、戦争を経験した世代の人たちがいなくなってしまうなかで、第二世代、第三世代の私たちが、なにをどう伝えることができるのか問われています。

沖縄では、沖縄戦で旧日本軍の組織的な戦闘が終わったとされる六月二三日が、「慰霊の日」となっています。役所や学校は休みになり、各地で追悼式が開かれます。しかし、沖縄タイムスとヤフーとの共同アンケートでは、全国からの回答者二〇〇〇人のうち、七五・五%が慰霊の日を「知らなかった」と回答しています。同様に、原爆が広島に投下されたのが八月六日、長崎に投下されたのが八月九日ですが、過去のアンケート等でも約七割が原爆が投下された日を知らなかったという結果があります。

かく言う私自身も、総合社会福祉研究所に就職するまで、沖縄の慰霊の日も、原爆の日も、覚えていませんでした。『福祉のひろば』の編集に関わるようになって、戦争体験者の話を聞いたり、被爆者の話を聞いたり、日本の国家予算がどれだけ軍事費に使われ、アメリカから不必要な兵器を買わせられ、どれだけ沖縄や基地周辺の住民が日々理不尽にいのちの危険にさらされているかを知って、やっと少し、平和や戦争の問題に向き合えるようになりました。

昨年の本誌八月号で永田浩三さん（元NHKプロデューサー、ジャーナリスト）が、各家庭にテレビが普及したころに起きたベトナム戦争は、その悲惨なようすがテレビを通して茶の間に流されたことから、「リビングルーム・ウォー（茶の間戦争）」と呼ばれていたと書かれていました。そして、戦地の映像やジャーナリスト、キャスターが語りかけた反戦が、戦争反対の世論を大きくあと押ししました。インターネットが普及したいま、いままさに戦争が起きている国、武力攻撃や弾圧、デモが起きている国のようすを、手元のスマホでリアルタイムに見ることができます。テレビと大きく違うのは、流れてきたものに対して、受け取った人がすぐに反応を返せるということでしょうか。武力攻撃する人や国を批判し、抑圧され・攻撃されている人々に応援のメッセージをとどけることができます。武力以外の解決方法や平和の大切さを伝え、共感し、つながりあうことができます。長崎平和推進協会では、コロナ禍で現地に行けない状況もあと押しし、昨年四月からSNSやYouTubeの活用をすすめ、原爆投下直後の被害の写真を解説する動画の再生数は一〇万回を超えているそうです（『長崎新聞』二〇二二年六月二六日）。

戦争体験者のリアルな話を聞くこと、現地で被爆遺構に触れること、民主化を勝ち取るために命をかけてたたかっている人たちの思いを知ること、本や動画、SNSなど、戦争や平和を考えるきっかけは溢れています。一回だけでは記憶に残らないかもしれません。一〇人に伝えても、心に響くのは一人かもしれません。それでも、なにかのきっかけやタイミングで、聞いたこと、学んだことが自分の経験とつながり、ストーンと心に落ちることがあるはずです。そのきっかけをつくりつづけ、発信しつづけることが、私たちができること・すべきことなのだろうと思います。

（編集主任）